

平成 30 年度（第 62 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

総合的な学習の時間・キャリア教育分科会

総合的な学習の時間に主体的・対話的に取り組む生徒の育成
～海とともに生きる地域学習を通して～



平成 31 年 2 月 8 日
洋野町教育委員会
洋野町立中野中学校
田 毛 亜 紀

平成31年2月8日(金) 平成30年度(第62回)岩手県教育研究発表会

総合的な学習の時間・キャリア教育分科会

「総合的な学習の時間に主体的・対話的に取り組む生徒の育成」

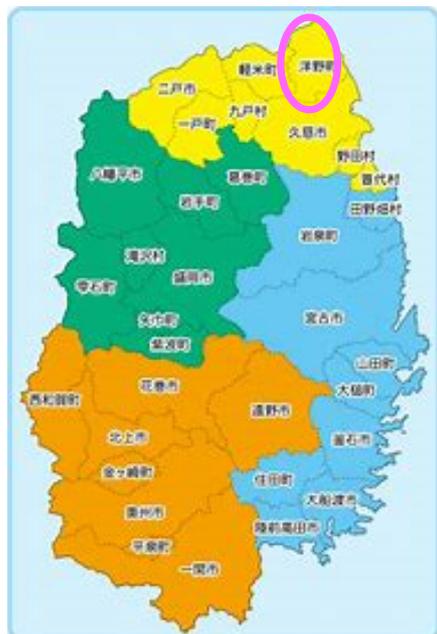
～海とともに生きる地域学習を通して～

洋野町立中野中学校

教諭 田毛 亜紀

- 1 洋野町と本校の概要
- 2 本校の「総合的な学習の時間」の経過
- 3 研究主題について
- 4 研究の内容
- 5 研究の実際
- 6 成果と課題

1 洋野町と本校の概要



学校の概要

全校生徒48名

校訓「自学自修」

自ら学び、自ら修める



2 本校の「総合的な学習の時間」の経過

中野中学校		洋野町・中野小学校	
平成14年度	総合的な学習の時間に「追Q」と名付けた学習活動を展開	平成26年度	洋野町が東京大学と海洋教育促進拠点締結。中野小学校が海洋教育促進研究拠点校
平成28年度	海洋教育を軸とした総合的な学習の時間がスタート	平成27年度	中野小学校が海洋教育特例校指定となり、「海洋科」が開始。6年生の児童：東京大学で発表
平成29年度	洋野町教育委員会から2年間の研究指定を受け、海洋教育を軸とした総合的な学習の時間の研究を開始	平成29年度	洋野町内全小中学校で、海洋教育に地域学の考えを含めた「ひろの学」への取り組み開始
平成30年度	全学年「総合的な学習の時間」での学校公開研究会を実施		

3 研究主題について

【研究主題】

**総合的な学習の時間に
主体的・対話的に取り組む生徒の育成**

【副主題】

～海とともに生きる地域学習を通して～

【主題設定の理由】

- ①今日的課題から
- ②学校教育目標の具現化から
- ③生徒・地域の実態から



4 研究の内容

- (1)年間を見通した教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築
- (2)思考・判断・表現を支援する言語環境の整備
- (3)課題解決型授業の展開
- (4)小学校や地域とのつながり

5 研究の実際

(1)年間を見通した教科横断的な
カリキュラム・マネジメントの構築

3年間の見通しをもった年間学習活動

付けさせ
たい力

明確な
目標

学校
行事

連携
機関

他教科と
の関連

5 研究の実際

(2)思考・判断・表現を支援する言語環境の整備



5 研究の実際

(3)各学年における課題解決型授業の展開

1年生「地域を知ろう～海と山の関係～」



5 研究の実際

(3)各学年における課題解決型授業の展開

2年生「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から～」



5 研究の実際

(3)各学年における課題解決型授業の展開

3年生 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造～」



5 研究の実際

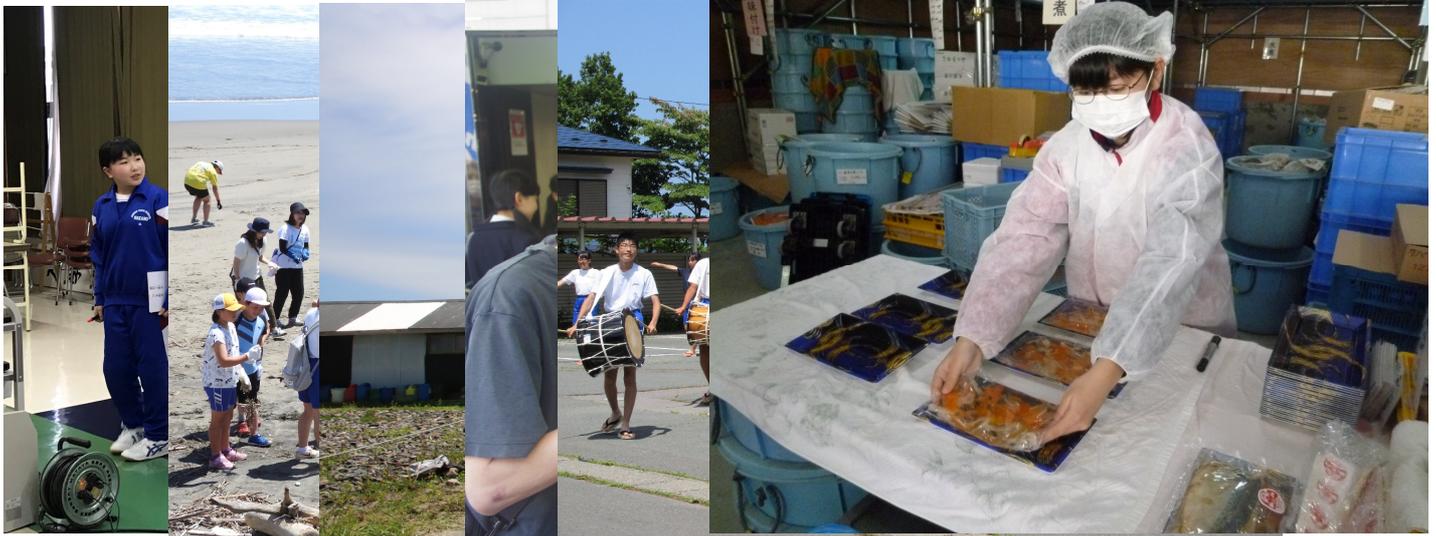
主体的・協働的な学習展開

ICT機器の活用



5 研究の実際

(4) 小学校や地域とのつながり



6 成果と課題

成果

- ①カリキュラム・マネジメントの作成→見通し
- ②伝える対象を地域→表現力の向上
- ③主体的な学びや地域との関わり
→学習の必然性・主体性、対話する姿
- ④地域に対する意識の向上

課題

- ①小中学校9年間のカリキュラム・マネジメントの構築
- ②各学年の実践状況の共有と修正
- ③生活で生きる力の習得と探究を意識した計画
- ④人柄など目に見えないよさの理解につながる学習活動の展開



H30. 7.27 中野小中合同有家浜清掃

1 洋野町と本校の概要

- (1) 洋野町…岩手県最北端，人口約 17,000 人の町
- (2) 洋野町立中野中学校…全校生徒 48 名
- (3) 校訓…「自学自修」

2 本校の「総合的な学習の時間」の経過

H14 年度	総合的な学習の時間に「追Q」と名付けた学習活動を展開。
H28 年度	海洋教育を軸とした「総合的な学習の時間」がスタート。
H29 年度	海洋教育に地域学の考えを含めた「ひろの学」への取り組みが洋野町で開始。 洋野町教育委員会から2年間の研究指定を受け，海洋教育を母体としたひろの学を軸とした「総合的な学習の時間」の研究を開始。
H30 年度	全学年「総合的な学習の時間」での学校公開研究会を実施。

平成 26 年度に洋野町が東京大学と海洋教育促進拠点としての締結を交わしたことにより，近接する中野小学校が，海洋教育促進拠点校となった。また，中野小学校では平成 27 年度から教育課程特例校として「海洋科」が始められた。そこで本校では小学校での子どもたちの学びを生かし，小中の接続を意識して総合的な学習に取り組んできた。

3 研究主題について

【研究主題】

総合的な学習の時間に主体的・対話的に取り組む生徒の育成

【副主題】

～海とともに生きる地域学習を通して～

【主題設定の理由】

- ①今日的課題から
- ②学校教育目標の具現化から
- ③生徒・地域の実態から

【研究目標】

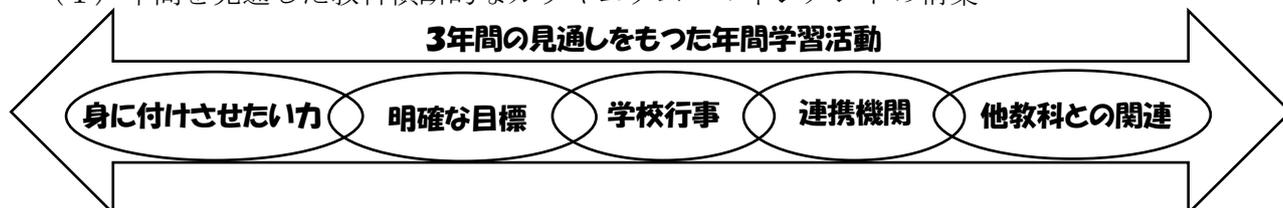
恵まれた環境と教科横断的な知識を生かし，海とともに生きる地域学習を通して，地域のよさを学び，未来について考え，課題解決型能力や思考力・判断力・表現力の育成を図る。また，洋野町を愛し，地域や岩手の復興・発展を支える人材の育成を目指す。

4 研究の内容

- (1) 年間を見通した教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築
- (2) 思考・判断・表現を支援する言語環境の整備
- (3) 課題解決型授業の展開
- (4) 小学校や地域とのつながり

5 研究の実際

- (1) 年間を見通した教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築



(2) 思考・判断・表現を支援する言語環境の整備

- ① 根拠をもって話すこと・自分の考えと比較しながら聞くことの意識
- ② 録画した発表の様子を客観的に自己評価する場と、他者から評価をしてもらう場の設定
- ③ 語彙力増加に向け、図書委員会と連携した「朝読書 in 図書室」の実施
- ④ 語彙力増加に向け、「復興」「海」「洋野」などに関する新聞記事を月ごとに掲示

(3) 課題解決型授業の展開

[1 学年] 「地域を知ろう～海と山の関係～」

- ・地域企業での体験活動と、海と山の関係性についての学習会
- ・地域企業商品を使用したオリジナルメニューの作成とレシピ集づくり



1年

[2 学年] 「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から～」

- ・他地域の観光、住、食、環境などについて学習活動などを行うキャリアアップ研修
- ・洋野町ディストピアの想像からユートピア構想への転換



2年

[3 学年] 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造～」

- ・町内在住の首都圏出身者による「洋野の魅力」講演会
- ・「洋野の魅力発信」企画書の作成と、町役場職員へのプレゼンテーション



3年

[全学年] 主体的・協働的な学習展開と ICT 機器を活用したまとめ・発表

(4) 小学校や地域とのつながり

- ① 新入生による中野小学校時代に取り組んだ個人研究の発表
- ② 中野小学校との合同有家浜清掃と洋野エモーションへの参加
- ③ 全学年での特産品販売（1，2 年生においては特産品についての学習会も実施）
 - 1 学年：学校文化祭
 - 2 学年：キャリアアップ研修（H30 年度は八戸市）
 - 3 学年：修学旅行（H30 年度は東京・中野ブロードウェイ）
- ④ 地元団体による伝統芸能ナニャドヤラ指導と地域への披露
- ⑤ 地域企業での職業体験

6 成果と課題

成 果	①カリキュラム・マネジメントの作成→見通しをもって授業者が進めることができた ②伝える対象を地域→表現力の向上につながった ③主体的な学びや地域との関わり→学習の必然性や主体性，対話する姿につながった ④地域に対する意識が向上した
課 題	①小中学校9年間のカリキュラム・マネジメントの構築 ②各学年の実践状況の共有とカリキュラム・マネジメントの修正 ③生活で生きる力の習得と探究を意識した計画の見直し ④施設・自然など目に見えるよさだけではなく，温かい人柄など目に見えないよさも理解できる学習活動の展開

I 研究の概要

1 研究の理論

(1) 研究主題

総合的な学習の時間に主体的・対話的に取り組む生徒の育成
～海とともに生きる地域学習を通して～

(2) 主題設定の理由

①今日の課題から

未来を担う生徒たちの前にはグローバル化の進展、技術革新によるAIの台頭など、予測困難な時代が押し寄せている。このような社会を生き抜いていく力として、様々な変化に積極的に向かい合い他者と協働して課題を解決する力、様々な情報を見極め知識の探究的な理解の上に情報を再構築し新たな価値につなげる力、複雑で急速な状況変化の中で臨機応変に目的を修正し行動する力が求められている。

これらのことから、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の習得」を目指すことが本校の課題と捉えた。そこで、教科横断的な学習として取り組んでいる海洋教育を母体とする「ひろの学」を軸とした総合的な学習の時間において、地域を知り未来を見つめる学習活動を意図的・計画的に行えば、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支える人材を育成できるのではないかと考えた。

②学校教育目標の具現化から

学校教育目標

「自ら考えて努力し、知性を高める生徒を育てる」

「生活の向上を目指し、自主的に判断して行動できる生徒を育てる」

「健康明朗でたくましく、心豊かな生徒を育てる」

本校の学校教育目標は、校訓でもある「自ら学び、自ら修める」生徒の育成を目指すものである。「自ら課題を見付け、その課題解決の方法を模索することによって、学習したことを活用し解決しようとする生徒」の具現化に向け、日々の教育活動に取り組んでいる。そこで、総合的な学習の時間に重点を置き、与えられた課題だけではなく、自分たちの置かれた環境を客観的にとらえ、課題を見出し、その解決に向け主体的・対話的に取り組む生徒の育成を研究の柱として位置付けた。

③生徒・地域の実態から

本校の生徒は明るく素直であり、与えられた課題については解決に向けて真面目に取り組んでいる。各調査結果からは概ね知識の定着が見られると言えるが、少ない言語で通じ合う日常を過ごしているため言語能力に落ち込みが見られ、無回答率も高い傾向にある。自分の考えを根拠なども含めて筋道立てて文章化し、伝える力を育成する充実した言語活動の実践が課題である。言語能力の向上と諸調査の無回答率の減少を目指し、学習内容を振り返る時間と共有の場の確保、知識の定着につなげられる振り返りの実践を積み重ねていく必要がある。教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や探究的な学習の中で、言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力の定着を図りたい。

また、保護者や地域住民は教育への関心が高く、学校行事や諸活動に非常に協力的であり、地域一体となった教育振興運動や、充実したPTA活動、キャリア教育への協力など、幅広い支援をいただいている。

そこで、恵まれた環境と教科横断的な知識を生かし、海とともに生きる地域学習を通して、地域のよさを学び未来について考え、課題解決能力や思考力・判断力・表現力の育成を図ることとした。

(3) 研究目標

総合的な学習の時間に主体的・対話的に取り組む生徒を育成する。そのために、言語によって自分の考えを伝える学習活動を位置付けるとともに、教科横断的な知識を集結し、地域のよさを学び未来について考えたことを外部に発信する場を設けることで、学習知識の定着と、課題解決能力や思考力・判断力・表現力を育む。また、海洋教育を母体とする「ひろの学」を通して地域を知り、未来を見つめる学びを通し、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支える人材を育成する。

(4) 研究内容

- ①年間を見通した教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築
- ②思考・判断・表現を支援する言語環境の整備
- ③各教科における課題解決型授業の展開
- ④小学校や地域とのつながり

(5) 研究方法

- ①海洋教育を母体とする「ひろの学」を視点とした教育活動・授業実践
- ②授業研究会，教員相互の参観による授業研究
- ③諸調査結果の活用による授業改善

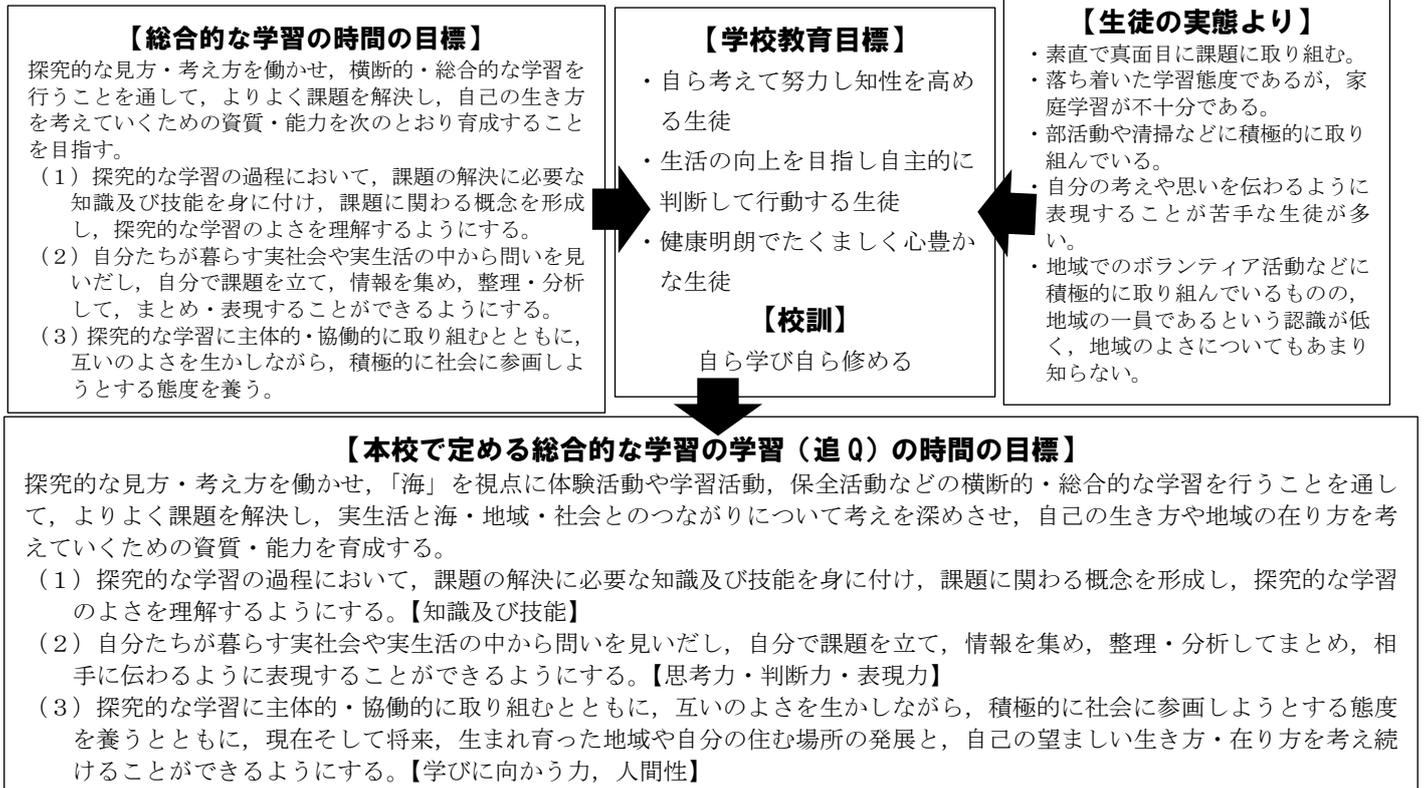
(6) 研究の検証方法

- ①授業実践および観察法
 - ア 授業研究会
 - イ 日常の生徒観察
- ②文献法
 - ア 諸調査の結果による数値的変容
 - イ ワークシートなどの分析による生徒の変容等実態把握
 - ウ 各種研修会への参加，先進校の実践情報の収集

(7) 研究の経過

平成 28 年度
・「海」を視点としたカリキュラムの見直しと授業づくり ・海洋教育についての理解 ・海洋教育子どもサミット気仙沼での発表
平成 29 年度（洋野町教育委員会指定 1 年目）
・「海」を視点とした教科横断的な計画の作成 ・相手意識をもった表現活動を意識した授業実践 ・新学習指導要領の改訂内容についての理解 ・全国海洋教育サミット，洋野町海洋教育地域カンファレンスでの発表
平成 30 年度（洋野町教育委員会指定 2 年目・学校公開研究会）
・「主体的，対話的な学び」や，小学校からの学びの系統性や地域とのつながりを意識した授業実践

(8) 研究の全体計画



本校で定める総合的な学習（追Q）の時間の内容					
探究課題		探究課題を解決することを通して育てようとする資質・能力			
		(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力	(3) 学びに向かう力, 人間性	
一年生	全校浜清掃・伝統芸能「ナニヤドヤラ」取り組み	<p>「地域を知ろう ～洋野町の山と海の関係と地域産業～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業と海との関わり ・大野地域の産業やくらしと海との関わり ・海と山の関わりについて ・洋野町 PR 大作戦（学校文化祭） ・販売商品を使ったレシピづくり ・洋野町の山と海の関係と地域産業についてまとめ、発表しよう <p>「自分を見つめる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業、自然を活用した様々な活動を知り、洋野の海と山の関係から地域のよさを見付けることができる。 ・既習事項を生かした、情報収集、まとめ、発表をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・課題解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 ・情報収集の手段を選択することができる。 ・必要な情報を収集、蓄積することができる。 ・問題状況における事実や関係を把握し、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの教え合いなどを通して、他者と協働して課題を解決しようすることができる。 ・自己評価や相互評価により、自分の活動内容について振り返り、改善点を意識して生活することができる。
一二年生		<p>「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアアップ研修 ・洋野町 PR 大作戦（in八戸） ・洋野町と他地域を比較しよう ・他地域から学んだこと、洋野のよさをまとめ、発表しよう <p>「地域の一員として生きる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洋野の課題やよさを見付けるために、キャリアアップ研修などを通して、他地域と洋野を比較することができる。 ・地域のよさを生かした町づくりについて考えたことをICTを活用しまとめ、発表することができる。 ・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深め、目的をもって行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な事柄にある特徴を見付けることができる。 ・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。 ・分析した情報や調査・体験したこと、自分の考えを、相手や目的に応じてわかりやすくまとめることができる。 ・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をすることができる。 ・学習の進め方等を振り返り、実生活に生かそうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と自分とのかかわりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えることができる。 ・地域の一員としての自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えることができる。
三年生		<p>「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋野町 PR 大作戦（in東京） ・洋野のよさを知ろう ・夢実現プロジェクト <p>「社会の一員として生きる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洋野の未来の町づくりのために必要なことを考えるために、洋野の課題を分析し、修学旅行で見聞きしてきたことと洋野のよさを融合することができる。 ・地域を誇りに思う気もちと想像した町づくりを、効果的に発信することができる。 	<p>【表現する力・将来について考える力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる。 ・地域のよさをすることで地域の課題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何ができるかを考え、行動する力。 	
中野中学校の付けたい力		<p>【表現する力・将来について考える力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる。 ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる。 ・地域のよさをすることで地域の課題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何ができるかを考え、行動する力。 			

2 研究主題に対する基本的な考え方

(1) 研究主題について

- ①「主体的」とは、学ぶことに興味や関心をもち、地域のよさに目を向け、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動をまとめ振り返り、次の学習や実生活につなげることである。
- ②「対話的」とは、生徒同士、教職員や地域の方（対大人）との外的対話を通じて、お互いの考えを交流することで、新たな考えに気が付いたり、自分の考えをより妥当なものにすることである。また、学んだことを基にした自己内対話によって深めた自己の考えを伝え合うことを通して、集団としてよりよい考えを形成していくことである。

(2) 副主題について

- ①「海とともに生きる」とは、海に生き海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に目を向け、自分たちの生まれ育った地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育むことを目的とし、平成25年度から「海洋教育」の取組を推進してきた洋野町の理念のことである。
- ②「地域学習」とは、近接する洋野町立中野小学校での「海洋科」における学習や経験を土台に、中野地区にある有家浜をはじめとする自然や人材、企業などの地域教育資源を活用した学習の充実を図ることである。

■中野実践区が有家浜清掃と洋野エモーション



手作りの旗を掲げて列車を歓迎する子どもたち

町教育振興会中野実践区（大久保善仁会長）は7月27日、有家浜で海岸清掃と洋野エモーションを行いました。中野小と中野中の児童生徒、保護者、教職員、地域住民など約100人が参加し、おもてなしの心を学びました。照りつける日差しの下、参加者は海岸に下りて空き缶やペットボトルなどのごみを拾い、浜の環境美化のため汗を流しました。

清掃の後は、JR八戸線で運行するレストラン列車に向かってメッセーじやイラスト入りの旗や大漁旗を振って歓迎。列車が通り過ぎた後も見えなくなるまで手を振り続けました。中野道次元くんは「去年よりごみが多く、たくさん拾って浜をきれいにできた。エモーションでは乗客の笑顔が見えたので喜んでもらえたと思う」と満足そうに話しました。

100人で列車歓迎

【広報ひまの 6月号掲載】

3 研究の実際

(1) 思考・判断・表現を支援する言語環境の整備

自分の考えを根拠なども含めて筋道立てて文章化し、伝える力を育成する充実した言語活動の実践のために、以下の内容を指導の要点とした。

- ①根拠も合わせて自分の考えを文章化して述べること。
- ②自分の考えをまとめたり話したりするために、話の構成や展開、主張に注意し、自分の考えと比較しながら聞くこと。
- ③相手に伝わる発表をするために、録画した発表の様子を客観的に自己評価したり、他者から評価してもらったりする場を設定すること。

【発表を評価する観点 資料：第3学年 プレゼンテーション時の評価用紙】

	評価の観点	評価	STEP UP
発表の技術	聞きやすい声の大きさであったか。	大きい・丁度よい・小さい	
	話すスピードは適切であったか。	速い・丁度いい・遅い	
	発表態度(礼・目線・表情・言葉遣いなど)はどうかであったか。	よい・おおむねよい・悪い	
	質問に対する受け答えはできていたか。	よい・おおむねよい・悪い	
	相手が話したい内容を理解することができたか。	分かりやすかった 分かりづらかった	
	「①現状分析②課題発見③原因解明④解決案」が示されていたか。	示されていた 示されていない	
	心が揺さぶられるプレゼンであったか。(期待感,そこに行きたいという欲求,共感,イメージがわく)	揺さぶられた 揺さぶられなかった	
資料の提示	スライドは、分かりやすくシンプルに構成されていたか。	情報量が… 多い・丁度いい・少ない	
	スライドの色使いは適切であったか(3色を基本に)。	色使いが… 良かった・良くなかった	
	スライドには(聴き手が)知りたい情報が視覚的(効果的)に示されていたか。	示されていた 示されていない	



グループごとの発表映像をテレビ映像で見ながら、声の大きさ、間のとり方、立ち位置など、発表の技術を評価している様子



個人のスライド発表を、話の内容とスライドが分かりやすい発表かなど、発表内容について評価しながら聞いている様子

④読書の推進と新聞の活用

相手によく伝わるように、自分の考えをまとめ述べるためには豊かな語彙力が欠かせない。そこで、生徒の語彙力を増やすために、図書委員会と連携し「年間目標読書冊数12冊」を掲げ、学年ごとに学校図書館で朝読書を行う「朝読書in図書室」の取り組みを実施している。また、月ごとに「復興」「海」「洋野」などに関する新聞記事の掲示を行っている。



(2) 課題解決型授業の展開

①学習課題の設定について

各学年のテーマに合わせ、学習のゴールの見通しを持たせうえて、小学校からの既習事項も含めて個やグループで課題を設定すること。

〔1学年テーマ「地域を知ろう ～海と山の関係～」



地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさに迫る学習課題を探る。そのために、地域企業の方に講師になっていただき、山と海の関係について考える学習活動や体験的活動を通して、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深めながら海と山の関係について考える課題設定を行う。

〔2学年テーマ「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から～」



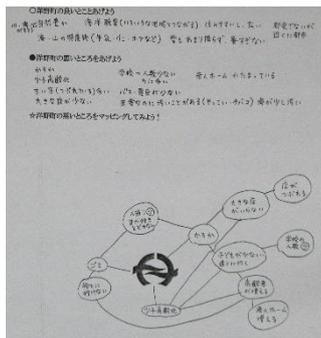
他地域と洋野を比較することを通して、他地域の特性を生かした産業などについて学ぶとともに、洋野町の魅力や課題点を焦点化する学習課題を設定する。そのために、観光、住、食、環境の視点で他地域についての学習活動などを行い、自分たちの生活する地域の課題について知り、洋野の特性を考えさせる。

〔3学年テーマ「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」



洋野町の課題を分析し、これまでの既習事項や修学旅行で見聞きしてきたことと洋野のよさを融合し、洋野の未来の発展について考えるために、首都圏の産業から洋野町に役立てられることはないかという視点を持ちながら学習課題を探る。その一助として、首都圏出身者である洋野町復興支援員による講演会により、自分たちの住む洋野の魅力を再確認し、地域を誇りに思う心を育むとともに、洋野の未来について考える課題設定を行う。

②学習課題を解決するための、主体的・協働的な学習展開について



〈個の思考の保証〉
○個の考えをワークシートにまとめる
○個の考えをもとにグループ交流

〈思考の共有〉
○ホワイトボードなどにグループの意見をまとめ提示し、全体共有
※自分の考えと比較しながら見聞きし、分からない点については質問をする

〈個・グループの考えの再構築〉
○個の考えを再度練り直しまとめる
○グループの考えの再構築
再構築した個の考えをグループで共有し、新たな疑問を調べるなどし、深めた内容を理由や根拠が分かるように記述したり、発表したりする

③将来を見据え、発達段階に応じたICTを活用したまとめ・発表について

2021年度から全面実施される新学習指導要領では、「発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科の特性を生かし、教科横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と明記されている。

そこで、一斉学習や個別学習のみならず、協働学習の場面においてICTを活用することによって、思考力・判断力・表現力などの育成を目指す。

	各学年のICT活用		
	一斉学習	個別学習	協働学習
1 学年	・図表や写真、音声、動画などを活用して分かりやすく説明することにより、生徒の学習に対する興味・関心を高める（教員による教材の提示）	・インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録 ・マルチメディアを用いた資料、作品の制作 ・情報端末の持ち帰りによる家庭学習	・グループや学級全体での発表・話し合い ・複数の意見・考えを議論して整理 ・グループでの分担、協働によるパワーポイントの制作と発表
2 学年			
3 学年			



(3) 小学校や地域とのつながり

①中野小学校とのつながり

- ・中学校の追Qオリエンテーションにおいて、新入生の発表（中野小学校で作成した卒業論文や活動資料を使用）を位置付けることで、在校生や教職員の小学校での学習活動の理解につなげ、中学校の学習活動に生かせるヒントを見出す。
- ・中野小学校と連携した授業参観を実施することで、双方の教育方針や海洋教育の実践、目指す児童生徒像を共有し、児童生徒理解や教科指導の改善につなげる。また、海洋科を設置し授業に取り組んでいる先進校の授業を見ることで、系統性を踏まえ中学校での発展を目指す。
- ・中学校のみで実施していた海岸清掃や洋野エモーションを共同で行うことにより、地域環境を守る意識の定着の低年齢化を図る。

②地域とのつながり

- ・地域企業の協力による洋野町特産品販売

	主 な 連 携 機 関	内 容
1 学年	長根商店	洋野町PR大作戦（文化祭での販売） オリジナルレシピの考案
2 学年	長根商店, 種市南漁協, 館豆富店	洋野町PR大作戦（八戸市）での洋野町物産品の販売
3 学年	長根商店, 種市南漁協, 川崎食品, 館豆富店, 洋野町商工会議所, 大野ふるさと公社	洋野町PR大作戦（東京都中野区）での洋野町物産品の販売

- ・地元団体の協力による伝統芸能の継承

洋野町には地域に伝わる伝統芸能「ナニヤドヤラ」がある。その歴史について、地元保存会の方から教えていただき、「ナニヤドヤラ」は「やませ」による冷害で苦しんだ先人の心の拠り所となったことを全校生徒は理解している。今も脈々と受け継がれる伝統芸能の素晴らしい価値にふれることを通し、生徒は地域に誇りをもつとともに、町内の夏まつりに参加することで、地域の方に笑顔を届ける役割を担う。

- ・地域の方の学習活動への協力

学区内にある企業を調べると、おおよそ50ほどの数がある。そこで、近隣市町村ではなく、地域企業協力の下、職場体験学習を行い、職業観や勤労観を養いながら、働く側面から地域のよさを再認識し、将来を考える能力を高める。

以上のように、学区内には地域教育資源が豊富ではあるが、生徒や教員がそれらについて理解していないという現状である。そこで地域を知り、未来を見つめる学びを通して、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支える人材を育成できると考える。



①中野小との合同海岸清掃



②地元保存会の方による
ナニヤドヤラ練習



③職場体験学習

(4) 年間を見通した教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築

生徒に付けさせたい力、明確な目標ゴール、学校行事、他教科との関連を示した年間活動計画を作成し、学年の系統性が分かるよう、中学校3年間の見通しを明らかにした。

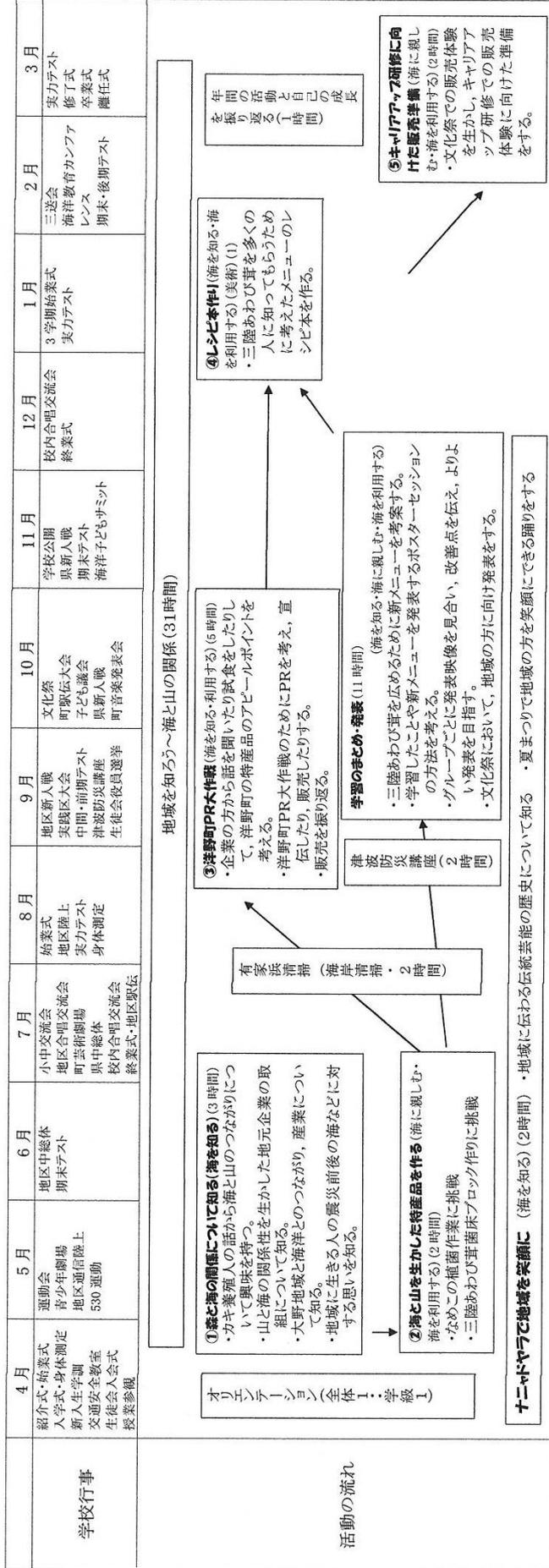
洋野町立中野中学校 1学年 「地域を知ろう ～海と山の関係～」ストーリーマップ

【実践のねらい】

地元企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良いところを知り、地元に対する興味・関心を深めさせる。そのために、地元企業の方に講師になっていただき、山と海との関係についての学習活動の他に、地元企業で取り組んでいる冷涼な気候を生かした「なめこ」の植菌作業や、地元で取れるあわびの殻を利用した「三陸あわび茸」の菌床ブロックづくり、三陸あわび茸商品を使った新メニュー考案とレシピ本作りなどの体験的活動を行う。それから3月（総合的な学習の時間）3、1、国語、理科、社会科、英語科、美術科、技術・家庭科）

- 時教 4月から3月（総合的な学習の時間）3、1、国語、理科、社会科、英語科、美術科、技術・家庭科
- 関連 国語、理科、社会科、英語、美術科、技術・家庭科
- 目標 (1) 地元企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良いところを知り、地元に対する興味・関心を深めることができ。
- (2) 課題設定や課題解決・追究活動に主体的に取り組むことができる。
- (3) 目的にふさわしい情報収集の仕方を知り、様々な方法で情報収集を行うことができる。
- (4) まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。
- (5) 学習、体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と、自分らしさや自己の成長を発見することができる。

主な連携機関	内容
長根商店	地元企業の事業と海との関係の学習、なめこの植菌作業
ひろのまきばば天文台	三陸あわび茸の菌床ブロックづくり、新メニュー考案
長根商店、種市南漁協、川崎食品、福豆高店、洋野町商工会議所、大野ふるさと公社	大野地区の産業と海洋の係わりについて講義
洋野町保健センター	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売
洋野町立中野小学校	新メニュー、レシピ本作り
中野ふじの会	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野地区コミュニケーション協議会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会
	海洋清掃、地域貢献活動



洋野町立中野中学校 2 学年 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から～」 ストーリーマップ

【実践のねらい】

他地域と洋野を比較することを通して、他地域と洋野町のそれぞれの特性を生かした産業などについて学ぶとともに、洋野町の魅力や課題点を焦点化させる。そのために、キャリアアップ研修の際には洋野町以外の地域での地元特産品の販売体験活動、観光、環境、住、食の観点で青森県八戸市周辺についての学習活動などを行う。また、地元企業協力の下、職場体験学習を行い、職業観や勤労観を養いながら、将来を考える能力を高める。これらの活動を通し、自分たちの生きている地域の課題を見つめ、洋野の特性を生かした課題解決の道を探る。

○時数 4月から3月 (総合的な学習の時間)

○関連 国語、理科、社会科、技術・家庭科

○目標 ・キャリアアップ研修を通して、他地域と洋野を比較し地元の課題を見付け、地元の良さを生かした町づくりについて考えることができる。

・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えることができる。

・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を見・設定することができる。

・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

・地域の一人としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市清漁協、川崎食品、箱田商店、洋野町商工会議所、大野ふるさと公社、ラビア	キャリアアップ研修(海外)での洋野町物産品の販売 修学旅行(東京都中野区)販売準備
エネルギー関連施設	施設見学
東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センター	洋野ディストピアストーリーの作成学習会
長根商店、種市高等学校、種市歴史民俗資料館、大野ふるさと公社、まきは天文台、ミルク工房	洋野ストーリー構築に関わる施設見学
中野地区を中心とした企業	職場体験学習
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、並大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「オニヤドヤラ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
洋野町保健センター、食生活改善推進協議会	郷土食、調理実習、地産地消の学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事 紹介式・始業式 入学式・身体測定 実力テスト 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 青少年劇場 地区通信陸上 530 運動 キャリアアップ研修	地区中総体 期末テスト	小中交流会 地区合唱交流会 町芸術劇場 県中総体 校内合唱交流会 終業式・地区駅伝	始業式 地区陸上 実力テスト 身体測定	地区新人戦 実業大会 中間・前期テスト 津波防災講座 生徒会役員選挙	文化祭 町野伝大会 県新人戦 町音楽発表会	学校公開 県新人戦 期末テスト 海洋子どもサミット	校内合唱交流会 終業式	3 学期始業式 実力テスト	三送会 海洋教育カンファ レンス 期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式
オペレーション(2時間) ①キャリアアップ研修(海を知る・利用する)(6時間) ・観光、環境、住、食の観点で他地域の特性を生かした産業などについて学ぶ。 ・他地域の復興の様子や海に対する思いなどを知る。 ②洋野町PR大作戦(海を知る・利用する)(5時間) ・キャリアアップ研修のアドビールポイントを考え販売ポスターなどを作る。 ・洋野町PR大作戦のためにPRを考え、宣伝したり、販売したりする。	③キャリアアップ研修(海を知る・海に親しむ・海を利用する)(6時間) ・キャリアアップ研修を振り返るために個人新聞を作成する。 ・個人の振り返りを発表する。	津波防災講座(2時間) ④考察・学習のまとめ・発表(14時間) (海を知る・海に親しむ・海を利用する) ・洋野町の課題を見つけ、洋野の特性を生かし解決策を探る。 ・考察したことをパワーポイントにまとめる。 ・説得力のあるプレゼンテーションについて理解する。 ・グループごとに発表を見合い、改善点を伝え、よりよい発表を目指す。 ・文化祭や海洋教育サミットで発表をする。 ・改善点を修正した、最終段階の発表を録画する。	⑤職場体験学習(9時間)(海を知る・海を利用する) ・地元企業での職場体験学習を通して、働くことの意味などを考える。 ・中野地区の人々や海の関わり、震災前後の海などに対する思いなどを知り、自分の生き方について考える。	津波防災講座(2時間) ⑥修学旅行に向けた準備(海に親しむ・海を利用する)(5時間) ・1、2年生での販売体験を生かし、修学旅行での販売体験に向けた準備をする。 ・海に関わる学習したいテーマを決め、修学旅行で訪問する施設を決め、準備を進める。	⑦年間を振り返る(1時間)						

他教科との関連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
【社会】 「世界から見た日本の自然環境」 【技術】 「パソコン操作」	【国語】 「問題意識を持つて聞こう」 【理科】 「水の循環」	【国語】 「要約する」	【国語】 「説明する」 「レポート」	【国語】 「説明する」 「レポート」	【国語】 「意見文」 「プレゼンテーション」 【社会】 「日本の諸地域」	【理科】 「セキツイ動物の出現と進化」	【社会】 「北海道地方」	【家庭科】 「地域の恵みを使った調理実習」	【家庭科】 「持続可能な社会を考える」	【国語】 「話し合い」 【理科】 「天気の変化を予想しよう」 「気象災害への備え」	

洋野町立中野中学校 3 学年 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造」

【実践のねらい】

洋野町の課題を分析し、修学旅行で見聞きしてきたことと洋野の良さや強さを融合し、洋野の未来の発展について考える。そのために、首都圏の産業から洋野町に役立つ視点をもちながら参加する修学旅行において、中野ブロードウェイでの地元特産品の販売活動や、海に関わる個人テーマを学習する施設見学などを行う。また、首都圏出身者である洋野町役場の方による講演会で、自分たちの住む洋野の魅力を再確認し、地域を誇りに思う心を育む。洋野の未来について考え発信することを通して、将来を想像する力を高め、最終的に「洋野について自分たちの言葉で語ることでできる人間」の育成を目指す。

○時数 4月から3月 (総合的な学習の時間)

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

○目標 ・修学旅行で訪れた東京の文化・産業などから、洋野町の町づくりに生かせるものを見つけて、洋野の課題を見付け、地元の良いところを生かした洋野の町づくりに取り組んで考えていくことができる。

・洋野の良さを生かした洋野の未来を考え発信することを通して、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語るができる。

・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定し、各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市南漁協、川崎食品、館豆富店、洋野町商工会	洋野町PR大作戦(東京都中野区)での洋野町物産品の販売
個人テーマに関わる施設	海に関わる個人テーマの追究
洋野町役場	町づくりにかかわる職員との派遣
ひろのまきはな文芸台	施設見学
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、弘大校内研修会
中野ふじの会	伝説芸能「ナニヤドヤ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
なかの保育園	保育体験学習

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介式・始業式 入学式・身体測定 実力テスト・学習 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 青少年劇場 地区通信路上 530運動 キャリアアップ研修	地区中総体 期末テスト	地区中総体 期末テスト	小中交流会 地区合唱交流会 町芸術劇場 校中総体 校内合唱交流会 終業式・地区駅伝	始業式 地区陸上 実力テスト 身体測定	地区新人戦 美地区大会 中間・前期テスト 津波防災講座 生徒会役員選挙	文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町音楽発表会	学校公開 県新人戦 期末テスト 海洋子どもサミット	校内合唱交流会 終業式	3学期始業式 実力テスト	三送会 海洋教育カンファ レンス 期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造」(38時間)

年間活動を振り返る(1時間)

オリエンテーション(2時間)

①海に関わる施設見学(海を知る・海に親しみ・海を守る・利用する)(2時間)
・都市部の特性を生かした産業や、海に関わる個々のテーマについて学ぶ。
②洋野町PR大作戦(海を知る・利用する)(4時間)
・洋野町の特産品のアピールポイントを考え販売ポスターなどを作る。
・ふるさと大使任命式
・洋野町PR大作戦のためにPRを考え、宣伝したり、販売したりする。
・修学旅行のまとめ。

③洋野の魅力を伝えてみよう(海を知る・海に親しみ・海を守る・海を利用する)(2時間)
・首都圏出身の町役場の方の講演を聞き、今まで知らなかった洋野町について知る。

有家庭清掃(海を守る)(2時間)

④「夢実現プロジェクト」学習のまとめ・討論(28時間)
(海を知る・海に親しみ・海を利用する)
・洋野町の課題について考え、課題を解決するためのテーマを決める。
・夢実現プロジェクトを立ち上げ、分担し、プロジェクト実現に向けて計画を練る。
・説得力のあるプレゼンテーションやパワーポイントの作り方について理解する。報告ごとに発表を見合い、改善点を伝え、よりよい発表を目指す。
・文化祭において、地域の方に向け夢実現プロジェクトのプレゼンテーションを行う。
・洋野の未来討論会

津波防災講座(2時間)

「ナニヤドヤ」で地域を笑顔に (海を知る)(2時間) ・地域に伝わる伝統芸能の歴史について知る ・夏まつりで地域の方を笑顔にできる踊りをする

他教科との関連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【理科】 「水溶液とイオン」	【国語】 「評価しながら聞こう」	【国語】 「就職しながら聞こう」	【国語】 「絶滅の意味」	【国語】 「素材を生かして表現する」	【国語】 「編集して伝えよう」	【国語】 「説明する」	【国語】 「条件スピーチ」	【社会】 「私たちの暮らしと経済」	【国語】 「メテオと東日本大震災」	【国語】 「メテオと東日本大震災」	【理科】 「地球と私たちの未来のために」	【理科】 「地球と私たちの未来のために」
【技術】 「パソコン操作」(通年)	【社会】 「現代の日本と世界」	【理科】 「炭素の循環」	【理科】 「自然環境の調査と環境保全」(天文台見学)	【理科】 「Clean Energy Sources」	【理科】 「地域貢献活動」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」	【理科】 「家庭」

II 研究のまとめ

1 研究の成果

- ・教科横断的なカリキュラム・マネジメントの構築を行ったことで、教師が生徒に身に付けさせたい力を意識して授業を展開することができた。
- ・地域の方に関わっていただき、今まで知らなかった地域の産業や歴史、海と山の関係について知り、理解を深めることで、地域に生きる一員であるという自覚をもち、何事にもより一生懸命取り組む姿が見られた。
- ・「総合的な学習の時間でどのような力が伸びたと思うか」というアンケート調査を行ったところ、「要点を分かりやすくまとめて話す力、資料やデータを分析する力、プレゼンテーション力、自分の考えを周りと交流する力、聞く力、質問する力」といった内容が見られた。各教科の学習においても、総合的な学習の時間で育成された力を発揮している姿が見られるようになった。（研究紀要P17:Ⅲ 資料等1 アンケート結果）
- ・全国学力・学習状況調査における、主体的な学びや地域との関わりについての質問紙調査の結果（研究紀要P17～20:Ⅲ 資料等 全国学力・学習状況調査の結果と分析）を見ると、大幅な数値の高まりが見られた。

2 研究の課題

- ・新学習指導要領のねらいと生徒の実態を踏まえ、本校の特色を生かした小中学校9年間のカリキュラム・マネジメントの構築が課題である。
- ・学期ごとに行う小中交流研修の中に海洋教育についての交流も設け、発達段階に応じた学習活動や、系統的計画をさらによりよいものにしていく必要がある。
- ・各学年の系統性を意識しながら教科横断的なカリキュラム・マネジメントを活用するために、各学年の実践の状況を共有する場を増やし、修正点を確認しながらよりよい内容にしていく必要がある。

3 その他

- ・中野小学校と連携した授業参観や校内研究会を実施することができ、双方の教育理念の共有、児童生徒理解や教科指導の改善につなげることができた。
- ・ICTを活用し、情報の収集、分析、整理、まとめをしたことで、将来につながる発表の力を伸ばすことができた。
- ・表現の多様さ、技術の向上は見られたものの、少ない言語で通じ合う日常を過ごしているため諸調査の言語能力に落ち込みが見られた。新聞記事の活用を引き続き行うとともに、自分の考えを根拠なども含めて筋道立てて文章化し、伝える力を育成する充実した言語活動の実践が課題である。



①PR販売事前学習会



②陸奥湊市場見学



③修学旅行でのPR販売

Ⅲ 資料等

1 アンケート結果

本校生徒の「地域を知り、地域を誇りに思う」という意識や、「個々の能力」にどのような変容があったか、アンケートの集計結果を比較したものと、目指す生徒像を関連させ分析を試みた。

《H29年12月アンケート：1学年の記述（抜粋）》

(1) 海と山の関係で分かったことは何ですか？

- ◇大野の平らな土地が昔は海だったということ。
- ◇海の地形と深さなど、大野の海成段丘について。
- ◇海成段丘を生かした農業などを行っていること。
- ◇洋野町の山での特産品は海とつながっているということ。
- ◇山に生息している毒キノコが山を掃除していること。
- ◇山がきれいだと海がきれいだということ。
- ◇山が異変を起こすと海も壊れるということ。

《考察》

何気なく通っていた場所が昔は海だったのかという驚きがアンケートから伝わってくる。その驚きが、学習意欲へとつながり、なだらかな海成段丘を生かした産業、海と山の関係性について自然、産業の両面から意欲的に地域を知ることができた。小学校の既習事項とつなげる授業展開をすることで、生徒の学習内容や気付きに深みが生まれるものと思われる。

(2) 小学校で学習してきたことを生かすことができましたか？また、どのような学習を生かすことができましたか？

- ◇自分で調べる力
- ◇まとめる力
- ◇人前で落ち着いて話すこと。
- ◇原稿を見ないように堂々と話して聞く力
- ◇自分の意見をはっきりと言う力
- ◇疑問をもちながら話を聞き、答えを見付けるためにたくさんの人とコミュニケーションをとること。

《考察》

小学校でのポスターセッションなどの発表を土台に、話す内容の構成や相手に伝えるための工夫をさらに考えながらできたという手ごたえを感じた生徒が多く見られた。また課題解決のために、「自分で調べる」方法以外に、「他と協働して調べる」力が備わっていることもうかがえ、将来に生きる力が育まれていることが分かる。

《H29年12月アンケート：2学年の記述（抜粋）》

(1) 他地域と比較して今まで知らなかったことや分かったことは何ですか？

- ◇角館には武家屋敷などの1年を通した観光資源があるが、洋野町には本当に何もない。
- ◇洋野町は、海、山、広大な土地などを生かして仕事や観光をしているが、秋田の角館では、歴史的建物が多く、それを生かしている仕事が多いこと。

- ◇洋野町では再生可能エネルギーなど、持続可能な社会を作るための取り組みがあまり進んでいないと思っていたが、私たちの知らない所で進められていた。
- ◇他地域では、昔からあるものを利用して観光に生かしていること。
- ◇他地域は、町の特色を生かした町づくりを進め、未来を見すえた町にも発展していつていくこと。
- ◇他地域でも自然を生かした産業を行っていること。

《考察》

アンケート結果から、他地域と比較することで、洋野町のマイナス面にも目を向けることができたことが分かる。「洋野町には何もない」という極端な感想もあったが、これこそが生徒が感じている洋野町への率直な思いであり、ここに洋野の未来を考える糸口がある。それぞれの地域の特色を生かした町づくりを考えるべきだという生徒の結論から描き出される洋野町の未来に、様々な期待が持たれる結果となっている。

(2) 他地域と比較して洋野町の足りない部分や心配な部分は何ですか？

- ◇人を呼びこむ力
- ◇若い人たちが遠いところに行ってしまうこと。
- ◇人口が少ない。
- ◇再生可能エネルギーがまだ足りない。
- ◇観光施設
- ◇洋野町は、よいところがあるのに観光客を呼びこめていない。
- ◇洋野町は、観光資源があるのに、それを生かすことができていない。
- ◇海や山を生かす設備がほとんどなくもったいない。

《考察》

他地域と比較したことで、「人」「再生可能エネルギー」「観光の在り方」と大きな課題が3つ、生徒の中で浮き彫りとなった。また、洋野町にもよいところがあると生徒自身のはっきりと自覚していることもわかる結果となっている。この時点では、洋野町の町づくりに本当に必要な物は何かを十分に考察していない段階であったが、このアンケート結果が、「洋野町のマイナス面をしっかりと捉え、洋野町のよさを生かした町づくりを創造する」という点で、今年度の各学年の単元構想に大いに役立っている。

《H29年12月アンケート：1，2学年の記述（抜粋）》

(1) 洋野町の魅力は何ですか？

自然	山と海に囲まれていること、自然豊かで安心できる場所、広大な土地、太平洋に面する海、星がきれい、川や海・山がきれい、自然の大きな恵みがある
食、特産物	ウニやホヤなどの海産物、牛乳、三陸あわび茸などがおいしい
人	人が優しい、若い人から年配の方までみんな元気

《考察》

洋野町にはよいところが沢山あると思っている生徒は多いが、漠然とした質問内容だったため、洋野町独自のよさまでアンケート結果から把握することはできなかった。そこで、今年度は、洋野町独自のよさを生徒が認識し、郷土を誇りに思えるよう、洋野町独自のよさに焦点を当てながら、各学年の学習活動が進むように計画を立てることを意識した。

(2) 総合的な学習の時間を通し、自分のどのような力が伸びたと思いますか？

1学年（小学校6年時，海洋教育子どもサミット気仙沼でポスターセッション発表）	2学年（小学校6年時，全国海洋教育サミットでポスターセッション発表）
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見付ける力 ・<u>説得力のある話し方</u> ・友達と協力して調べる力 ・<u>コミュニケーション能力</u> ・友達と協力し合って一つ一つのことをやり遂げる力 ・分かりやすくまとめる力 ・<u>聞く力</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>相手に伝えるように話す力</u> ・<u>自分の考えを周りの人と交流する力</u> ・資料やデータを分析する力 ・<u>聞く力</u> ・質問する力

《考察》

1学年では、小学校時に個人研究を行っていたため、グループごとに学習活動を行った結果、協力して学習をする力が付いたという回答が多かった。2学年では、資料やデータを分析する力が高まり、ここに教科横断的な力の向上がうかがえる。また、傍線部の回答は両学年に通じる内容であり、日常生活に生きる力が系統性をもって育まれていることが分かる。

諸調査結果からも、本校の生徒は地域への関心が高いこと、また、地域に貢献しようという思いが強く、実際に地域活動に関わっている生徒の割合の高まりが見られた。このことは、地域が生徒に活動の場を提供してくださる支援の表れであり、小学校からの海洋教育を軸とした学習活動を継続してきた賜物であると言える。また、自己の将来について考え、人の役に立ちたいという自己実現に向けた意識の高まりが見られることも成果として見てとれる。主体的・対話的に課題解決に取り組んでいるかという質問に関しても、大幅な意識の高まりが見られる。

よって、本校の総合的な学習の時間に行っている主体的・対話的に取り組む学習活動は、地域を誇りに思い、地域を考える人材の育成を十分に担うものと考えられる。



H30.7.27 中野小中合同有家浜清掃

平成 30 年度 洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 5 校時

学 級 1 年 A 組 (男子 9 名 女子 10 名 計 19 名)

場 所 1 年 A 組教室

授業者 佐藤風花

1 単元名 「地域を知ろう ～洋野町の山と海の関係と地域産業～」

2 単元目標

中野中学校では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する総合的な学習の時間を「追Q」と名付け、ひろの学に取り組んでいる。ひろの学の母体となっている海洋教育の4つの柱、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」をもとに、本校では、ひろの学の柱を、「洋野に親しむ」＝自然を身近に感じる、「洋野を知る」＝洋野を見つめ直す、「洋野を守る」＝自然との共生、「洋野を利用する」＝洋野の恵みを発信と捉えた。

本単元では探究的な見方・考え方を働かせながら、ひろの学の学習を通し、地域のよさを知ることと地域の課題解決を図ろうとする態度、地域の一員としての自覚や誇りをもち地域に貢献しようとする態度、そして未来への夢や目標をもち、地域や岩手の復興・発展を考え行動しようとする姿勢を身に付けさせたいと考え、以下の目標を設定した。

【知識・技能】

- ・地域の企業、自然を活用した様々な活動を知り、洋野の海と山の関係から地域のよさを見付けるようにする。(洋野を知る)
- ・既習事項を生かした、情報収集、まとめ、発表をするようにする。(洋野を知る、洋野を利用する)

【思考力・判断力・表現力】

- ・課題解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てるようにする。(洋野を知る)
- ・必要な情報を収集・蓄積するようにする。(洋野に親しむ、洋野を知る、洋野を利用する)
- ・多様な事柄にある特徴を見付けるようにする。(洋野を知る)

【学びに向かう力・人間性】

- ・グループでの学び合いなどを通して、他者と協働して課題を解決するようにする。(洋野を利用する)
- ・地域の一員としての自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えるようにする。(洋野に親しむ、洋野を守る、洋野を利用する)

3 生徒の実態から

生徒は小学校の学習において、海に関するテーマを個人で設定し、研究を進めてきた。その研究はポスターセッションという形式で、学校での発表や東京大学での大きな舞台上で発表してきている。このような小学校での学習を通して、洋野町に関心や疑問をもち、そこから課題を設定する力を身に付けている。しかし、集団で課題を解決させたり、集団で解決させたことをまとめ、発表したりする経験は少ない。

そこで、この単元においては、小学校の研究を通して学んだ知識を生かしつつ、「洋野町の魅力、よさを伝える発表」にするにはどのようにすればよいのか、互いに指摘し合ったり、話し合うことで考えを深め合ったりして、課題を解決していく力や、集団で解決したことをまとめ、発表する力を伸ばしていきたい。

4 教材について

洋野町では、小学校から「海・海洋」を切り口に教育課程を見直し、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点のもと、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化などに目を向け、自分たちの生まれ育った地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもの育成を目的とした海洋教育を母体としたひろの学に取り組んでいる。

そこで、1年生では2年時のキャリアアップ研修に向け、宣伝する方法の一つとして、長根商店さんの思いも載せたオリジナルレシピ集の作成を行う。そして、2年生でのキャリアアップ研修の際に、洋野町や三陸あわび茸のよさを広めるという目的で、作成したレシピ集とともに洋野町の特産物を宣伝し、商品販売を行う。

その学習過程の中で、洋野町に広がる豊かな自然にふれることで、生徒の豊かな心と郷土を愛する心を育てていきたい。また、体験的な学習や日常での経験を通して自分たちの住む洋野町についてのよさや、今後の発展について課題設定をし、情報収集や整理、表現するまで、見通しをもって考えさせていきたい。そして、自分たちが洋野町とどのように関わっていくか、よさを伝えることや発展させることについて意識を高めさせていきたい。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業、自然を活用した様々な活動を知り、洋野の海と山の関係から地域のよさを見付けている。 既習事項を生かした、情報収集、まとめ、発表をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 必要な情報を収集・蓄積している。 多様な事柄にある特徴を見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの教え合いなどを通して、他者と協働して課題を解決しようとしている。 地域の一員としての自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（全14時間）

時間	学習過程	ひろの学観点	・評価規準 〔評価方法〕	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合、 重点（◎）、それ以外（○）
1	課題設定	親知利	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で追究する学習課題に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	■三陸あわび茸の味、食感を生かしたメニューにはどのようなものがあるだろうか。 ◎長根商店での体験学習を基に、商品に対する想いや、特製について考え、オリジナル商品を提案するという言語活動を理解し、どのような料理ができるか試食を通して想像する。
2	情報の収集	知利	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習や既習事項を通して、オリジナルレシピを考え、文章表現している。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	■洋野町の特産品を生かしたオリジナルレシピをつくるにはどのように組み合わせればよいだろうか。 ◎具材を考える中で、地域の特産品を使用できないかなど、多様な角度から想像したことを文章表現する。
3	整理・分析	知利	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表や意見交流の中から、課題を発見し、オリジナルレシピを再考している。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	■よりよいオリジナルレシピにするために意見を交流しよう。 ◎もっとよいものに考えられないか、全体交流をする。

4	情報の収集・整理・分析	知利守	・各グループの発表や意見交流の中から、課題を発見し、オリジナルレシピを再考している。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	■地域の人のアドバイスをもとに、オリジナルレシピを試作してみよう。 ◎もっとよいものに考えられないか、地域の人と交流をする。
5	情報の整理・分析	親知利	・グループでの交流などを通して、オリジナルレシピを完成している。 〔観察・ワークシート記述内容〕	■試作したオリジナルレシピをより魅力が伝わるものにするにはどのような工夫が必要だろうか。 ◎グループの中でまとめた内容を全体で共有する。
6 ・ 7 ・ 8	まとめ・表現	知利守	・必要な情報を収集・蓄積している。 〔観察・制作物〕	■オリジナルレシピを分かりやすく伝えるための発表資料はどうあればよいか。 ◎分かりやすいパワーポイント作りの共通理解をし、色遣いや、一文の長さ、図表の使い方を考えながら、見やすいパワーポイントを作成する。
9			・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、改善点と解決案について意見を出し合っている。 〔観察・ワークシート記述内容〕	■聞き手に伝わる発表はどうあればよいか。 ◎分かりやすいプレゼンテーションについて共通理解する。
⑩ ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	まとめ・表現	親知利守	・グループ活動で話し合うことによって、改善点を見付け出し、魅力が伝わる発表のあり方を考えている。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	■三陸あわび茸の魅力が伝わるオリジナルレシピの発表はどうあればよいか。 ◎全体発表を行い、観点到に沿って良かった点と改善点、質問を出し合いグループごとにまとめる。
			・グループでの学び合いなどを通して、観点到に沿ってよりよいパワーポイントの作成を進めている。 〔観察・制作物〕	■オリジナルレシピの発表を改善し、完成させよう。 ◎前回出された発表の改善点を基に、よりよい発表を目指し練り直しと発表練習を行う。
			・地域と自分とのかかわりを踏まえて、地域に生きる一員であると言う自覚をもち、自己の将来の生き方について考えている。 〔発言・観察・振り返りの記述内容〕	■三陸あわび茸の魅力が伝わる発表をしよう。 ◎単元を通して身についた力や深まった考えを確かめるため、振り返りシートへの記入を行う。 ○長根商店の方に思いの伝わるプレゼンを行う。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・グループ活動を通して、発表の改善点を見付け、魅力を伝える発表のあり方について考えることができる。

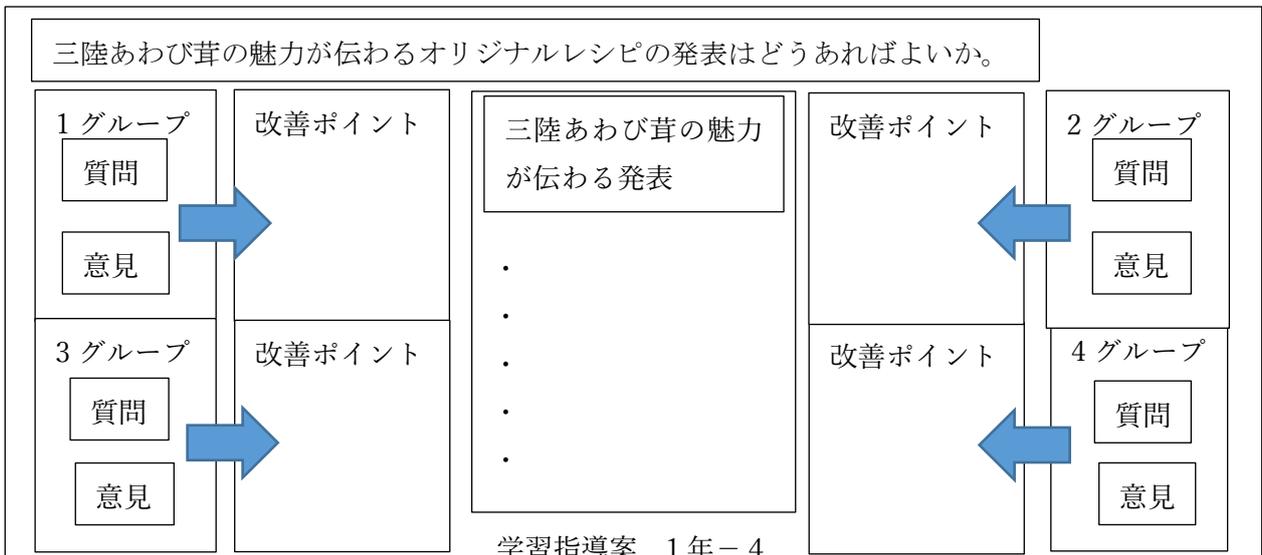
(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
思考力・判断力・表現力等	グループ活動で話し合うことによって、改善点を見付け出し、魅力が伝わる発表のあり方を考えている。	グループ活動の中でまとめた改善点は、どのような観点到で見付け出したのかを、グループで確かめる。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 3分	1. 前時までの学習と本時の流れの確認	・前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	☆前時の学習までに「三陸あわび茸のよさを伝えられるような発表」を目指していたことを確認し、本時の学習について、板書によって見通しを持たせるようにする。
	2. 問題提起	・課題意識をもち、本時の学習課題を知る。	
三陸あわび茸の魅力が伝わるオリジナルレシピの発表はどうあればよいか。			
展開 35分	3. 発表	・各グループの中で決まっている発表者が、各グループで発表する。 ・他のグループの発表について疑問に思ったことや、気付いた点のメモを取りながら聞く。 ・1つのグループ発表後、その発表の質疑応答を行う。	☆発表者には「三陸あわび茸の魅力が伝わるレシピの発表内容にする」視点で発表をさせる。聞き手には発表の観点に沿って「発表が三陸あわび茸の魅力が伝わる内容であったか」という視点で話を聞かせる。 ☆視点に沿ってメモを取らせ、質問や意見を述べさせる。
	4. グループ活動	・発表の改善のポイントを話し合い、まとめる。 ・各グループから出た改善のポイントを板書でまとめる。 ・三陸あわび茸の魅力が伝わるオリジナルレシピの発表がどうあればよいか話し合う。	☆質問や意見から発表の改善のポイントを話し合わせ、見付けさせる。 ☆三陸あわび茸の魅力が伝わる発表であるためには、発表内容の何をどのようにすればよいかについて話し合わせる。 ◎グループ活動で話し合うことによって、改善点を見付け出し、魅力が伝わる発表のあり方を考えている。【発言・観察・ワークシート】
展開 35分	5. 全体共有	・三陸あわび茸の魅力が伝わるオリジナルレシピの発表はどうあればよいかについて共有する。	
	6. 本時の振り返り	・本時の振り返りをする。	☆今後は本時にまとめた発表のあり方に沿って、どのように改善すればよいか具体的に考え、発表をよりよいものにしていくことを伝える。
まとめ 10分	7. 今後の見通し	・今後の見通しをもつ。	

(4) 板書計画



オリジナルレシビを発表しよう！！
～ステップ3 魅力が伝わる発表を考える～

1年 組 番 氏名

三陸あわび茸の魅力が伝わる
オリジナルレシビの発表はどうか。

☆発表の観点☆

- ①三陸あわび茸の特徴が知らない人に伝わる内容
- ②三陸あわび茸を通して何を伝えたいのかわかる内容

1. 各グループの発表で、それぞれの観点について疑問に思ったこと、気付いたことをカードに記入しよう。

2. グループで話し合い、質問・意見から改善できるポイントを考えよう。

3. 「三陸あわび茸の魅力が伝わる発表であるためには、発表はどうかであればよいか」考え、グループで話し合おう。

(自分の考え)

(グループの人の考え、他のグループの人の考え)

4. 今日の学習を振り返って感じたこと、考えたことを書こう。

平成 30 年度 洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 5 校時

学 級 2 年 A 組 (男子 9 名 女子 3 名 計 12 名)

場 所 2 年 A 組 教室

授業者 村松康司

1 単元名 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から～」

2 単元目標

中野中学校では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する総合的な学習の時間を「追Q」と名付け、ひろの学に取り組んでいる。ひろの学の母体となっている海洋教育の4つの柱「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」をもとに、本校では、ひろの学の柱を「洋野に親しむ」＝洋野を身近に感じる、「洋野を知る」＝洋野を見つめ直す、「洋野を守る」＝自然・資源の持続、「洋野を利用する」＝洋野の恵みを発信、と捉えた。

本単元では、探究的な見方・考え方を働かせながら、ひろの学の学習を通し、地域のよさを知ることによって地域の課題解決を図ろうとする態度、地域の一員としての自覚や誇りをもち地域に貢献しようとする態度、そして未来への夢や目標をもち、地域や岩手の復興・発展を考え行動しようとする姿勢を身に付けさせたいと考え、以下の目標を設定した。

【知識・技能】

- ・洋野の課題やよさを見付けるために、キャリアアップ研修などを通して、他地域と洋野を比較しようとする。(洋野を知る)
- ・地域のよさを生かした町づくりについて考えたことをICTを活用し
まとめ、発表をしようとする。(洋野に親しむ・洋野を守る・洋野を利用する)
- ・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深め、目的をもって行動しようとする。(洋野を知る・洋野を利用する)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・様々な問題状況の中から、課題を発見・設定しようとする。(洋野を知る)
- ・キャリアアップ研修を通して、他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、地域のよさを生かした発展について考えようとする。(洋野に親しむ、洋野を知る、洋野を守る)
- ・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をしようとする。(洋野を利用する)
- ・「海」を視点に地域とかかわる探究的な学習を通して、地域の一員としての自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えようとする。
(洋野を知る・洋野を守る)

【学びに向かう力、人間性】

- ・グループでの学び合いなどを通して、他者と協働して前向きに課題を解決しようとする。(洋野を利用する)
- ・地域と自分との関わりを踏まえて、地域に生きる一員であるという自覚をもち、自己の将来の生き方について考えようとする。(洋野に親しむ・洋野を知る・洋野を守る・洋野を利用する)

3 生徒の実態から

生徒は小学校4年生から海洋教育に取り組んでおり、体験的な学習や個人テーマに基づいた課題解決的な学習を通して、多くの知識や技能を身に付けている。特にも、グループ活動における話し合いや資料作成、発表の仕方などは中学校1年生の段階としては優れたレベルにあると思われる。小学校6年生時に「東北海洋子どもサミット in 気仙沼」に参加しており、その大舞台での経験が大きい。

な自信となって、今もなお海洋に対する興味や関心、意欲につながっている。中学校の総合の学習においても、考えたり、意見を交わしたりする活動に、小学校での知識や経験が生かされており、さらに発展した内容での学習を実践していくためには、より具体的・専門的な学習を行っていく必要がある。また、発表においても準備されたものや、知っている人については、しっかりとした受け答えができる反面、突然の質問や知らない人に対する対応力が不足しているように感じる。

これまでの学習で、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、自分たちの生きる地域の魅力について調べ、他地域と洋野町の特性を生かした産業などについて学んできた。それらの知識を生かしながら、発表時の受け答えの中で、質問に対し、明確で根拠のある答えを言える力を付けさせてあげたい。

4 教材について

洋野町の海洋教育は、海に生き、海とともに歩んできた歴史や文化に、「親」＝ふるさとで過ごす喜び、「知」＝地域の特色を学ぶ、「守」＝ふるさとを愛する心、「利」＝地域社会に尽くすの4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもの育みを目的としている。また、中野小学校では、特別の教育課程「海洋科」を設置し、「海・海洋」と人間の関係を理解し、海洋開発と利用、その可能性を子どもたちが意欲的に深められるような学習をしている。

2年生では、キャリアアップ研修で他地域と比較しながら、洋野町の悪いところの洗い出しを目的とした、「洋野町ディストピアストーリー」を作成。洋野町がどうなったら困るのかを深く考えさせ、「あまり近代化すると、自然環境破壊・特産品のウニの消失につながる」との意見から、再度、洋野町の魅力について素材を探させ、情報を発信させる効果的なプレゼンテーション作成の学習に取り組ませた。文化祭で地域の方々を相手に、学校公開で参加される先生方を相手に、そして最終の気仙沼サミットでは、本当に洋野町を知らない方々を相手に魅力を発信できるスキルを身に付けることを期待し、洋野のディストピア・ユートピア発表を録画、海洋教育最終学年の3年生時の導入時に行う振り返りに使用するために、本単元を設定した。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 洋野の課題やよさを見付けるために、キャリアアップ研修などを通して、他地域と洋野を比較している。 地域のよさを生かした町づくりについて考えたことをICTを活用しまとめ、発表している。 地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深め、目的をもって行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な問題状況の中から、課題を発見・設定している。 キャリアアップ研修を通して、他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、地域のよさを生かした発展について考えている。 他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの学び合いなどを通して、他者と協働して前向きに課題を解決しようとしている。 地域と自分との関わりを踏まえて、地域に生きる一員であるという自覚をもち、自己の将来の生き方について考えようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（全時間）

時間	学習過程	ひろの学 観点	・評価規準 〔評価方法〕	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合、重点（◎），それ以外（○）
1	課題設定	親 知 利	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で追究する学習課題に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	<ul style="list-style-type: none"> ■洋野のディストピアを具体的に想像するにはどうしたらよいか ◎既習事項やキャリアアップ研修での学習を基に、洋野ディストピアや洋野ユートピアについて考え、提案するという言語活動を理解し、洋野ディストピアをマッピングにて想像する。
2	情報の収集	知 利	<ul style="list-style-type: none"> キャリアアップ研修や既習事項を通して、他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、洋野のディストピアを想像し、文章表現することをしている。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	<ul style="list-style-type: none"> ■洋野ディストピアをさらに具体化するためにはどうしたらよいか ◎今のままだと、将来の洋野町はどうなるのか、多様な角度からネガティブに想像したことを文章化する。
3 ・ 4	情報の 整理・分析	知 利 守	<ul style="list-style-type: none"> 様々な問題状況の中から、課題を発見し、ディストピアを想像することをしている。 〔発言・観察・ワークシート記述内容〕	<ul style="list-style-type: none"> ■洋野ディストピアを多角的にみるためにはどうしたらよいか ◎もっとネガティブに考えられないか、全体交流をする。
5	情報の 収集・ 整理・分析	知 利	<ul style="list-style-type: none"> グループでの交流などを通して、洋野ディストピアを解決するアイデアを出すことをしている。 〔観察・ワークシート記述内容〕	<ul style="list-style-type: none"> ■洋野町の財産を生かして、洋野ディストピアを阻止するアイデアとして、どのようなものがあればよいか ◎洋野町の財産（強み）をたくさん想起させ、「衣食住」の 카테고리別にディストピアが、Iターン、Uターンしたくなるユートピアを描き出す。
6 ・ 7 ・ 8	まとめ ・表現	親 知 利 守	<ul style="list-style-type: none"> グループでの学び合いなどを通して、よりよいパワーポイントの作成を進めることをしている。 〔観察・制作物〕	<ul style="list-style-type: none"> ■洋野ユートピアを分かりやすく伝えられるパワーポイントとは、どうあればよいか ◎分かりやすいパワーポイント作りの共通理解をし、色遣いや、一文の長さ、図表の使い方を考えながら、見やすいパワーポイントを作成する。
9			<ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、改善点と解決案について意見を出し合うことをしている。 〔観察・ワークシート記述内容〕	<ul style="list-style-type: none"> ■聞き手に分かりやすい発表に必要な技術とはなにか ◎録画した発表風景を見て、グループ内で改善点を出し合い、パワーポイントや発表の改善を行う。

⑩		<ul style="list-style-type: none"> 他者の発表を聞き，質問・評価し合うことで，改善点と解決案について，意見を考えようとしている。 [発言・観察・ワークシート記述内容]	<ul style="list-style-type: none"> ■質問や意見に対する対応力を高めよう ◎発表を聞いて相互評価をし，改善策など意見を述べている。
11 ・ 12		<ul style="list-style-type: none"> グループでの学び合いなどを通して，観点に沿ってよりよいパワーポイントの作成を進めようとしている。 [観察・制作物]	<ul style="list-style-type: none"> ■パワーポイントや発表の仕方を練り直すにはどうしたらよいか ◎前回出された発表の改善点を基に，よりよい発表を目指し練り直しと発表練習を行う。
13 ・ 14		<ul style="list-style-type: none"> 地域と自分との関わりを踏まえて，地域に生きる一員であると言う自覚をもち，自己の将来の生き方について，考えようとしている。 [発言・観察・振り返りの記述内容]	<ul style="list-style-type: none"> ■海洋サミットで聞いている人に伝わる発表をしよう ◎単元を通して身についた力や深まった考えを確かめるため，振り返りシートへの記入を行う。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 他者の発表を聞き，質問・評価し合うことで，聞き手を意識した発表をすることができる。

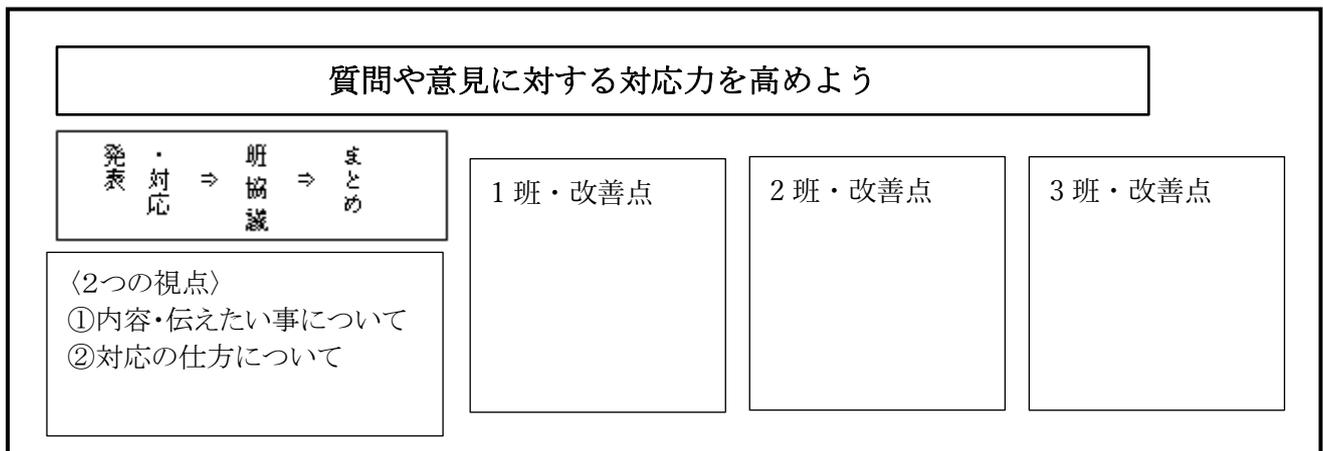
(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手だて
主体的に学習に取り組む態度	他者の発表を聞き，質問・評価し合うことで，改善点と解決案について，意見を考え述べようとしている。	具体的な改善ポイントを整理させる。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 5分	1. 本時の目的と内容の確認	・本時の学習の流れを確認し、見通しをもつ。	
	質問や意見に対する対応力を高めよう		
展開 35分	2. プレ発表 ○発表 ○意見を募る (1つの発表ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレ発表のやり方を確認する。 ・授業参加者に2つの視点を意識して見てもらい、発表後に質問や意見をもらうことを伝える。 ・各班で、自分の班の発表を行う。 ・評価者は、簡単にメモを取りながら発表を聞く。 ・評価者は、2つの視点の良かった点、改善すべき点をビデオにとりながら、意見や質問を受け、対応する。 ・他の班の発表やグループメンバーの意見(メモ)等から、自分たちの発表内容を再吟味する。 ・時間があれば修正作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆発表を聞くときの2つの視点について意識させる。 (2つの視点) ①内容・伝えたい事について ②対応の仕方について ☆自分の班の発表内容を理解し、伝わりやすく発表している。(机間巡視) ☆司会進行や受け答えに詰まったときなど、教師が支援するようにする。 ◎発表を聞いて相互評価をし、改善策など意見を述べている。(観察・ワークシート) ☆具体的な改善ポイントを整理させる。
	3. 班協議		
まとめ 10分	4. 本時のまとめ	・班協議を通して、発表内容について2つの視点から改善すべき点や付け加えたい点を発表する。	☆生徒の学習状況を確認、評価する。
	5. 本時の学習の振り返り・次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、自己評価する。 ・気仙沼サミットの発表に向けて、発表の見直しをすることを伝える。 	☆本時の学習課題についての振り返りができている(手だて)

(4) 板書計画



平成 30 年度 洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 5 校時

学 級 3 年 A 組 (男子 6 名 女子 11 名 計 17 名)

場 所 3 年 A 組教室

授業者 谷藤貴彦

1 単元名 「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」

2 単元目標

中野中学校では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する総合的な学習の時間を「追Q」と名付け、ひろの学に取り組んでいる。ひろの学の母体となっている海洋教育の4つの柱「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」をもとに、本校では、ひろの学の柱を「海に親しむ」＝洋野を身近に感じる、「洋野を知る」＝洋野を見つめ直す、「洋野を守る」＝自然・資源の持続、「洋野を利用する」＝洋野の恵みを発信、と捉えた。

本単元では、探求的な見方・考え方を働かせながら、ひろの学の学習を通し、地域のよさを知ることによって地域の課題解決を図ろうとする態度、地域の一員としての自覚や誇りをもち地域に貢献しようとする態度、そして未来への夢や目標をもち、地域や岩手の復興・発展を考え行動しようとする姿勢を身に付けさせたいと考え、以下の目標を設定した。

【知識・技能】

- ・洋野の未来町づくりのために、修学旅行で訪れた東京の文化・産業などから、洋野の町づくりに生かせるものを見付けるとともに、洋野の課題を発見・分析し、地域のよさを生かした町づくりについて考えるようにする。(洋野に親しむ、洋野を知る、洋野を守る)
- ・地域を誇りに思う気もちと想像した町づくりを、効果的に発信するようにする。
(洋野を利用する)

【思考力・判断力・表現力】

- ・様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができ、課題解決の方法や手順を考えて、見通しをもって計画を立てるようにする。(洋野を知る)
- ・情報収集の手段を選択することができ、必要な情報を収集・蓄積しようとする。
(洋野を知る)
- ・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をするようにする。
(洋野を利用する)

【学びに向かう力、人間性】

- ・グループでの学び合いなどを通して、他者と協働して前向きに課題を解決するようにする。(洋野を利用する)
- ・地域の一員として自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えることで、将来を想像する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語るようにする。
(洋野を守る、洋野を利用する)

3 生徒の実態から

生徒は、小学校から海洋教育に取り組み、体験的な学習や個人テーマに基づいた課題解決的
学習指導案 3年－1

な学習を通して、洋野町に対しての知識や資料作成や発表などのスキルが身に付いている。また、学校内外での清掃活動や啓蒙活動、施設訪問のボランティア活動に積極的で、地域の一員として活動する場が数多くあり、地域との繋がりが深い。

これまでの学習で、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、自分たちの生きる地域の魅力について調べたり、他地域と洋野町の特性を生かした産業について学んだりすることで、町の魅力や課題点を焦点化させ、地域のよさを生かした町づくりについて考えきた。

3年生の追Qの時間では、自分たちの住む洋野町の魅力を再確認し、地域のよさを生かした未来を考え、それを自分たちの言葉で語ることのできる力を培っていききたい。

4 教材について

洋野町では、小学校から「海・海洋」を切り口に教育課程を見直し、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点のもと、洋野町の豊かや自然や歴史や文化、郷土の特色を学ぶ体験学習や地域社会に根差した産業などを学ぶ海洋教育（＝復興教育）に取り組んでいる。

その最終段階である中学3年生では、これまでの学習を土台として洋野町のよさを生かした洋野の発展的な未来を考え、洋野町の魅力を発信する学習を行う。そこで、洋野町のPR活動や政策に実際に携わっている役場の方を講師に招き、町外から見た「洋野町の魅力」の講演をきっかけに新たな視点から町の魅力となる素材を探し、生徒自らが考える魅力ある町づくりの企画を立て、役場の方に採用してもらうことを目標にプレゼンテーションを行う学習に挑戦させたい。生徒自らが考える町づくりを提案していくことで、地域の一員としての自覚や郷土を愛する心が養われ、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考える礎となることを期待し、本単元を設定した。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさを生かした町づくりについて考えたことをICTを活用しまとめ、発表している。 ・洋野の課題やよさを見付けるために、キャリアアップ研修などを通して、他地域と洋野を比較している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題の中から、課題を発見・設定している。 ・他者の発表を聞き、質問・評価し合うことで、聞き手を意識した発表をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの学び合いなどを通して、他者と協働して前向きに課題を解決しようとしている。 ・地域と自分との関わりを踏まえて、地域に生きる一員であるという自覚をもち、自己の将来の生き方について考えようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（全時間）

時間	学習過程	ひろの学 観点	・評価規準 [評価方法]	学習課題(■)と主な学習活動(◎) * 学習活動を複数記述した場合、重点 (◎), それ以外 (○)
1 ・ 2	課題設定	知利	・本単元で追究する学習課題に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 [発言・観察・ワークシート 記述内容]	■新たな洋野の魅力を発見するには、どのような方法があるだろうか。 ◎2年生までの既習事項を確認し、角館以外の地域と洋野を比較し、洋野町の特徴や魅力を発見する手立てを探す。
3	情報の収集	知親	・洋野町の政策やPR活動に携わっている方の講演を課題意識をもつて聞こうとしている。 [発言・観察・ワークシート 記述内容]	■洋野の新たな魅力発見のために、何に注目していけばよいか。 ◎講演から洋野の魅力となる新しい材料があることを捉える。
4 ・ 5 ・ 6	情報収集・蓄積	知利	・洋野町の現状の中から新しい魅力となる材料を発見し、理由付けをしている。 [観察・ワークシート記述内容]	■逆転の発想を使って、洋野の新しい魅力(財産)を探そう。 ◎視野を広げることで見えてきた魅力(財産)の根拠を説明する。
7 ・ 8 ・ 9	情報整理・分析	知利	・必要な情報を収集・蓄積・整理していく中で、アイデアをまとめていく。 [観察・ワークシート記述内容]	■洋野町の魅力をもとにPRするための企画書はどうあればよいか。 ◎洋野町魅力マッピングを使い、PRするための企画を考える。 ○グループの中でまとめた内容を全体で共有する。
10 ・ 11 ・ 12	まとめ・表現	知利守	・グループの学び合いを通して、よりよいパワーポイントの作成を進められている。 [観察・制作物]	■企画書をもとに、洋野の魅力をもとにPRする発表資料を作ろう。 ◎分かりやすいパワーポイント作りを共通理解し、見やすいパワーポイントを作成する。
13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	まとめ・表現 (中間発表)	知利守	・発表を聞き、評価しあうことで、よりよい発表にするための意見を出し合っている。 [発言・観察・制作物]	■聞き手に伝わる発表練習をしよう。 ◎分かりやすいプレゼンテーションについて共通理解する。 ○録画した発表風景を見て、グループ内で改善点を出し合う。
17 ・ 18 ・ 19	情報収集・整理	知守利	・グループでの学び合いを通して、観点到に沿ってよりよいプレゼンテーションの作成を進めている。 [発言・観察・ワークシート 記述内容]	■自分たちの企画が採用されるためのプレゼンはどうあればよいか。 ◎発表の改善点をもとに、よりよい発表を目指して発表練習を行う。
20 ・ 21 ・ 22	情報整理・分析	知守利	・他のグループの発表を聞き、質問・評価し合うことで、改善点と解決策について意見を出し合っている。 [発言・観察・制作物]	■説得力のあるプレゼンにするためには、企画をどう練り上げればよいか。 ◎出された改善点をグループごとにまとめる。
23 ・ 24	まとめ・表現 (プレゼンテーション)	知守利	・地域の一員として自覚をもち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えようとしている。 [発言・観察・制作物]	■「洋野の未来」について考えたプレゼンテーションを役場の方に見てもらおう。 ◎自分たちが作った企画書を、町の政策に採用してもらえるよう、発表を工夫する。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・グループの話し合いを通して、他のグループへの質問や改善点などについて伝えることができる。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
思考力・判断力・表現力等	グループの話し合いを通して、他のグループへの質問や改善点などについて伝えようとしている。	積極的に自分の意見を伝えられるように、声掛けを行い、支援していく。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 2分	1. 本時課題と内容の確認	・本時の学習の流れを確認し、見通しをもつ。	
説得力のあるプレゼンにするためには、企画をどう練り上げればよいか。			
展開 40分	2. グループ発表 (8分)	・2つのグループ(○班, ○班)が、3分以内でプレゼンを行う。 ・聞く側は、プレゼンの内容について、疑問点や改善点などを、メモに取りながら聞く。	☆発表の視点について意識させる。 【聞く視点】 ①説得力がある内容であったか。 ②洋野の魅力を伝える企画になっていたか。
	3. グループの話し合い (8分)	・プレゼンを行った2つのグループに対する意見や質問を話合う。 ・必ずそれぞれのグループに対して、疑問点、改善点を考える。	◎他のグループへの質問や改善点などについて意見を述べている。(観察)
	4. 討論会 (24分)	・生徒司会者の進行で、2つのグループのプレゼン内容について討議する。 【発表グループの役割分担】 ◇記録者1名(自分たちの班に関する意見や質問を記録)	☆基本的には生徒司会者が仕切って進行するが、随時教師が支援していく。
まとめ 8分	5. 振り返り	・役場へのプレゼンに向けて、説得力のあるプレゼンにするために、どこを、どのように修正していけばよいか、ワークシートに記入する。	◎他のグループへの質問や改善点などについて考え、企画をどのように修正していけばよいか分かる。(ワークシート)
	6. 次時の確認	・次回の学習内容を提示し、学習活動の見通しの意欲付けをする。	

(4) 板書計画

<u>説得力のあるプレゼンにするためには</u> 企画をどう練り上げればよいか	説得力とは…
今日の流れ	○班 企画書
	○班 企画書

年 番 氏名

**説得力のあるプレゼンをするために、
企画をどう練り上げればよか。**

【発表を聞く視点】

- ① 説得力がある内容であったか
- ② 洋野の魅力を伝える企画になっていたか

1. メモをとって発表を聞こう

【 班】

疑問点	改善点

【 班】

疑問点	改善点

2. 振り返り（説得力のあるプレゼンにするために、どこを、どのように修正していけばよいか）